

# 飛騨市まちづくりレシピ

まちづくりって特別なことじゃなく、みんなの暮らしがちょっと豊かになる活動。  
飛騨市内で活動されているまちづくり団体を紹介していきます。  
気になる活動があれば、気軽に参加してみませんか？

日本で一番「ブツ」と笑える店を目指して！

飛騨市  
地域おこし協力隊 トマト店長（牧ヶ野芳男さん）



▲市長から店長に委嘱されました！



▲明るい店内は新鮮野菜でいっぱい！



▲道の駅にオープンした飛騨産直市そやな

「トマト店長」と言えば、飛騨では知らない人はいないほどの人気者。今回はそんなトマト店長こと牧ヶ野芳男さんにご自身のお仕事や活動についてお話を伺いました。

高山出身の牧ヶ野さん。高校卒業後は高山の市場に就職され、そこで青果の卸を7年経験されました。その後地元スーパーへ転職。青果担当や店長を26年勤められた青果のプロフェッショナルです。

トレードマークの「トマト店長」が生まれたのは2015年5月。当時古川店の店長だった牧ヶ野さんは、「楽しいお店じゃないとお客さんは来てくれない。忙しい主婦のみなさんにも、買い物の時くらい楽しい時間を提供したい。」そんな思いでスタートしました。Facebookやブログでの発信も行い、徐々に古川の人たちにも受け入れられました。「トマト店長のおかげで買い物が楽しい、来やすい店になった。」と嬉しい声が増えていったそうです。

仕事で農家さんと関わることも多かった牧ヶ野さん。美味しい野菜を作るのは上手でも、販売となると専門外で「思ったように自分の野菜をお客さんに届けられない。」という農家さんの悩みを聞くことがありました。「今までの自分の販売の経験を生かして、農家さんの手伝いがもっとできないだろうか。」そんな思いで農家さんたちと関わるうちに、独立という道を選ぶ決心をされました。『販売促進インストラクター』

として農家さんなどのお手伝いをスタートさせましたが、コロナの影響もあり思ったように市外へのPRなどができずにいた時、飛騨市が地域おこし協力隊として地場産市場ひだの店長を募集しているのを見つけました。「トマト店長を育ててくれた飛騨古川の皆さんに恩返しをしたい！」そんな思いで手を挙げ、見事店長に就任。店舗運営をしながら、移転の計画も進めていくこととなりました。

「野菜は生き物。店をストップさせずに移転することや、新スタッフの教育など、課題の連続でした。」夏の野菜の出荷のピークの時期とも重なり苦労も多かったそうですが、今年2022年7月に「飛騨産直市そやな」を無事オープンさせました。

得意のPOPでは珍しい野菜の食べ方や品種の特徴などを紹介したり、地元の商品はもちろん、前職での繋がりでも全国の美味しいものを並べ、地元の人にも観光客にも喜ばれる店づくりを工夫されています。

「今後はさらに地元の事業者さんとの連携を強化したり、農家さん取材してその魅力の発信などに力を入れていきたいですね。地元の方に喜んでいただきつつ、ネット販売なども強化して、飛騨の美味しい食材を全国に広めていきたいです。」と語ってくださった牧ヶ野さん。農家さんや地元の方の拠り所、観光客への飛騨の玄関口として更に楽しいお店を目指していくそう。ぜひお立ち寄りください。

## 基本情報

着任：2021年7月  
活動地域：飛騨市内全域  
主な活動：飛騨産直市そやなの店長として、飛騨市の美味しいものを内外に広く流通させる。

▼市外のイベントで飛騨市をPR!



▲販売促進インストラクターとしてセミナーも

飛騨市のまちづくり最新情報はこちら▶

<https://www.city.hida.gifu.jp/site/hidaplus/>

